科学技術振興機構の
オープンサイエンスへの取り組み

平成27年11月11日

科学技術振興機構
知識基盤情報部　岡田　啓一
Japan Science and Technology Agency

0. JSTの概要

科学技術イノベーションの創出に貢献

国
［行政機関］

提言

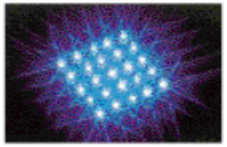
研究開発戦略を立てる

中期目標

科学技術イノベーションを興す

研究開発の推進

研究成果の実用化



青色LED

抗体マスク

国際化の推進

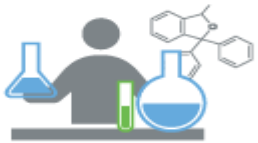
産学連携拠点の活用

科学技術イノベーションの基盤をつくる

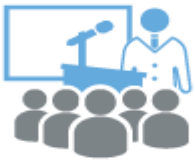
データベースetc. ツールの整備

JDream III
researchmap
J-STAGE
つながる ひろがる ひらめく J-GLOBAL 科学技術総合リンクセンター

次世代を担う人材育成



科学技術を広く伝える



メニュー

1. オープンアクセス
2. 研究データの共有
3. RDAの日本開催

1. オープンアクセス

- 2013年4月
- オープンアクセスに関するJSTの方針

JST論文のOA化状況

年度	WoS収録 論文総件数	OA論文数	OAの割合
2008	3,661	191	5.2%
2009	4,169	217	5.2%
2010	4,614	276	6.0%
2011	5,058	398	7.9%
2012	5,283	514	9.7%
2013	5,673	686	12.1%
2014	5,732	692	**12.1%**
合計	34,190	2,974	8.7%

※ Web of Scienceにおけるオープンアクセスとは、オープンアクセスジャーナルに限られており、ハイブリッドOA、セルフアーカイブに対応していないため、上記のOA割合はミニマムの値

※JSTが独自に調査

■調査対象：Web of Science　調査方法：各年度について発行されたJSTクレジットを持つ論文（Article）を調査

オープンアクセスの今後の取組

- OAに向けて具体的な方策としては、グリーンを基本としゴールドも許容
- OAの進捗管理のためには総体の把握が必要
- グリーンによるOAが進捗するには機関リポジトリ側の支援が必須
- 継続的なフォローアップ

2. 研究データの共有

科学技術情報委員会の開催

- 委員長　浜口友一氏（元　(株)NTTデータ　シニアアドバイザー）
- 第1回開催：2014年7月4日
- 第2回開催：2014年10月15日
- 第3回開催：2015年3月2日

わが国におけるデータシェアリングのあり方に関する提言

提言①：データシェアリングポリシーを早急に策定すべき

提言②：わが国としての持続的な研究データ基盤を構築すべき

提言③：研究データに係る人材の確保と育成を政策的に推進すべき

提言④：研究データに係る研究業績評価の仕組みを見直すべき

提言⑤：国はデータシェアリングを推進する研究コミュニティに対し、充実した支援サービスを行うべき

http://jipsti.jst.go.jp/information/board/?id=606

研究データの共有

「データシェアリングを利用した科学技術」に関する勉強会

- 文部科学省とJSTで共同開催
- H27．3～H27．6　　計10回

3. RDA総会の日本開催

H28. 2. 29
データシェアリングシンポジウム【無料】

H28. 3. 1～3
RDA（Research Data Alliance）7th総会
【有料】

RDAとは？

- 2012年8月創設
- NSF、EU、ANDSの出資の国際的組織
- 研究者主導のボトムアップで議論

  ワーキンググループでインフラ、ポリシープラクティスなどデータシェアリングのグローバルルールを議論
- 目標：研究者とイノベータが技術、分野、国を越えてデータをオープンに共有し、社会の大きな課題を解決
- 年2回の総会実施（第7回を日本で開催）

データシェアリングシンポジウム：

科学の発展への起爆剤

～データ駆動型科学の推進に向けて～

【後援】
内閣府（予定）
文部科学省（予定）
日本学術会議
【共催】
国立研究開発法人産業技術総合研究所
国立研究開発法人情報通信研究機構
国立研究開発法人物質・材料研究機構
国立研究開発法人理化学研究所（予定）
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構

申し込みはこちら
https://jipsti.jst.go.jp/rda

https://www.facebook.com/RDATokyoGlobal/

2016年2月29日　一橋講堂

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構

Making Data Sharing Work in the era of Open Science

Research Data Alliance Plenary Meeting 7
1- 3 March 2016, Tokyo, Japan

research data sharing without barriers
rd-alliance.org

今後の方向性（まとめ）

RDA招致を契機に国内オープンサイエンスの機運醸成

- 日本の研究者、科技政策決定者、ライブラリアンなどのコミュニティにオープンサイエンスの議論に関与していただき理解を深めてもらうことが重要

日本における機運が高まれば政策の実効性増大

- ステークホルダーのオープンサイエンス理解が深まることで内閣府、文科省の政策実施実効性が増大